

授業科目	看護学概論		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	1学年 前期
1. 科目のねらい・目標			
1. 看護学全般に共通する基本的原理と、看護の理念や看護実践の原理、看護の対象について学び、看護の本質と役割を理解する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 2 3	6	看護師という職業“看護の専門性と独自性”	1. 専門職としての看護師 2. 法的側面からみた看護師、保健師助産師看護師法 3. 看護の定義とその役割 4. 看護実践の法的根拠と法的責任 5. 看護師の業務上の危険－ハザードマップづくり
4 5	4	看護の対象とその理解	1. 統合体といわれる人間の特性 2. 対象の反応をみる「全体像を捉える」ということ 3. 看護の対象 4. ストレス反応とコーピング
6	2	看護における倫理	1. 専門職と職業倫理 2. 看護職の倫理規定 3. 臨床現場での倫理的課題と取り組み
7 8	4	日本における看護師の誕生と看護の変遷	1. 職業としての看護の始まり・看護の充実と発展 2. 看護の教育制度とキャリア開発
9 10	4	看護の継続性とチームアプローチ	1. 継続看護 2. 多・他職種との連携と協働
11	2	健康観の変遷と日本人の健康の現況	1. 多様な健康観とその変遷 2. 障害の捉え方の変遷 3. 保健統計からみた日本人の健康状態
12	2	健康の獲得にむけた戦略	1. 予防の概念 2. すべての人々が健康になるための戦略 －ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケア－
13 14	4	看護実践のための理論的根拠－看護理論家が探究した看護とは－	1. 看護理論とは 2. 主な看護理論家が探究した看護 3. ナイチンゲールの功績と看護覚え書
15	2	単位認定試験	1. 学習のまとめ 2. 単位認定試験
3. 教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院		
4. 参考書	看護覚え書き改訂版第8版 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護者の基本的責務 日本看護協会出版 新訂キラリ看護 医学書院		
5. 成績評価方法	課題、レポート、筆記試験		
6. 先輩学生からのメッセージ	参考書も多く使用するので準備をして授業内容を深めていきましょう。配布プリントにわかりやすくまとめられているので、授業をしっかりと聞き試験に臨んでほしいです。		

授業科目	看護基本技術Ⅰ（安全・安楽の技術）		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	1学年 前期
1. 科目のねらい・目標			
1. すべての看護場面に共通する安全・安楽について理解し、基本技術を習得する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1	2	看護技術	1. 看護技術とは
2	2	感染予防	1. 感染と感染予防策の基礎知識
3	6		2. 感染予防における看護師の責務と役割
4			3. 感染源への対策
5			4. 感染経路への対策
			5. 人体の防御機能の増強に向けて （衛生的手洗い、個人防護用具の脱着）
6	8		6. 感染源、感染経路への対策の実際
9			（衛生的手洗い、滅菌手袋の着脱、無菌操作）
10	2	【技術試験】	【手洗い、滅菌手袋の装着、無菌操作】
11	8	ボディメカニクス	1. 看護における安楽の意義
12			2. 安楽な体位の保持
14			3. ボディメカニクスの基本 （ボディメカニクス、体位変換、車椅子移乗）
15	2	まとめ 単位認定試験	（ ）は演習 【 】は技術試験内容
3. 教科書	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
4. 参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社		
5. 成績評価方法	授業態度、筆記試験、技術試験により評価します。		
6. 備考(学生へのメッセージ等)	演習をしながら、感染予防やボディメカニクスの看護技術を学びます。 身だしなみを整えて演習に参加しましょう。		
7. 先輩学生からのメッセージ	感染予防もボディメカニクスも将来看護師になったら必要な技術です。しっかり練習して身につけましょう。		

授業科目	看護基本技術Ⅱ（人間関係を築く技術）		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	1学年 全期
1. 科目のねらい・目標			
1. 看護実践において対象の把握や治療関係を保つために、信頼関係を築くための基本技術を習得する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 ～ 6	12	看護場面に応じたコミュニケーション	1. コミュニケーションとは （コミュニケーションの基本） 2. 看護におけるケアリングとコミュニケーション 3. 看護理論とコミュニケーション 4. 看護とコミュニケーション （患者とのかかわり） 5. コミュニケーションのプロセスに影響する要因 6. 医療における信頼関係とコミュニケーション 7. コミュニケーションの演習課題 （プロセスレコード、ロールプレイ）
7 ～ 10	8	観察・記録・報告	1. 観察の意義と目的・方法 2. 看護記録 3. 報告の意義と目的・方法（観察・記録・報告の基本）
11 ～ 14	8	指導技術	1. 看護の教育機能 2. 指導技術の基本となるもの 3. 指導の対象者と領域 4. 指導の進め方
15	2	まとめ 単位認定試験	
（ ）は演習			
3. 教科書	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社		
4. 参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
5. 成績評価方法	授業態度、筆記試験により評価します		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	グループワークに積極的に参加することで、メンバーからも多くのことを学べる機会となります。		
7. 先輩学生からのメッセージ	今後の臨地実習にも大きく関わってくるため、しっかり予習・復習に取り組み、頭に入れておくことが大切です。		

授業科目	看護基本技術Ⅲ（フィジカルアセスメント）		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	1学年 後期
1. 科目のねらい・目標			
1. 対象の健康状態を把握するための知識・技術を習得する。 2. 収集した情報を、共通の情報にすることが出来る。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 2	4	フィジカルアセスメントとは	1. 看護におけるフィジカルアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントの基本技術（問診、視診、触診、打診、聴診）
3 4 5 6 7 8 9	14	身体機能別のフィジカルアセスメント	1. 呼吸系のフィジカルアセスメント 2. 循環系のフィジカルアセスメント 3. 消化系のフィジカルアセスメント 4. 感覚系・運動系のフィジカルアセスメント 5. 中枢神経系のフィジカルアセスメント （呼吸・循環のフィジカルアセスメント）
10 11 12 13	8	バイタルサイン	1. バイタルサインとは 2. バイタルサイン測定 （バイタルサイン測定）
14	2	【技術試験】	【バイタルサイン測定】
15	2	まとめ 単位認定試験	
（ ）は演習 【 】は技術試験内容			
3. 教科書	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 はじめてのバイタルサイン メディカ出版		
4. 参考書	フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院		
5. 成績評価方法	授業態度、筆記試験、技術試験、課題提出により評価します。		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	対象の状態を把握するため、また、命を守るための看護技術を学びます。 解剖生理学の知識が必須です。復習して授業に臨みましょう。		
7. 先輩学生からのメッセージ	フィジカルアセスメント・バイタルサイン測定には、解剖学の知識がとても大切になります。特に、復習をしっかりとるようにしましょう。		

授業科目	日常生活の援助技術 I		
単位・時間数	2単位 45時間	開講時期	1学年 全期
1. 科目のねらい・目標			
1. 対象の状態を把握し、日常生活を整えるための援助技術を習得する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 ~ 7	14	環境	1. 環境の諸要素とその調整 2. 病室と病床の環境調整 (ベッドメイキング、臥床患者のリネン交換)
8	2	【技術試験】	【ベッドメイキング】
9 ~ 14	12	食事	1. 食事・栄養摂取の意義としくみ 2. 食事・栄養摂取のアセスメント 3. 患者への食事の援助(食事の介助、口腔ケア) 4. 経腸栄養とは * 経管栄養法・胃瘻栄養法、末梢静脈栄養は臨床看護総論 I で学習する
15 ~ 21	14	排泄	1. 排泄の意義としくみ 2. 排泄のアセスメント 3. 排泄の援助 (尿器・便器を使用した排泄援助) * ポータブルトイレ・おむつ交換の援助法は地域在宅看護論で学習する。 4. 排便障害のある患者の援助 5. 排尿障害のある患者の援助 6. 排泄に関する処置(浣腸・導尿) * 摘便法・留置カテーテル法は地域在宅看護論で学習する
22	2	【技術試験】	【導尿】
23	1	単位認定試験	( ) は演習 【 】 は技術試験内容
3. 教科書	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
4. 参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社		
5. 成績評価方法	授業態度、筆記試験、技術試験により評価します。		
6. 備考(学生へのメッセージ等)	ベッドメイキングの技術試験があります。積極的に練習し、技術を身につけましょう。患者役を体験する機会もあります。対象の立場に立って、援助方法を検討する機会となります。		
7. 先輩学生からのメッセージ	座学だけでなく、学生同士で行う技術演習もあり、実際の援助のイメージが付きやすいです。援助時には、身体のしくみもわかっていた方がよいので解剖学を復習しておきましょう。		

授業科目	日常生活の援助技術Ⅱ		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	1学年 前期
1. 科目のねらい・目標			
1. 対象の状態を把握し、日常生活を整えるための援助技術を習得する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 ～ 4	8	活動・休息	1. 活動と休息 2. 活動のアセスメント * 関節可動域に関しては看護基本技術Ⅲで学習する 3. 運動機能の維持・回復のための援助 * 体位変換、車椅子移乗等は看護基本技術Ⅰで学習する 4. 安静保持の援助（安楽な体位） 5. 睡眠の援助
5 ～ 13	18	清潔・衣生活	1. 清潔の意義 2. 入浴 3. 手浴・足浴（足浴） * 陰部洗浄は老年看護学で学習する * 口腔ケアは在宅看護論で学習する 4. 全身清拭 5. 洗髪（ケリーパッドを用いた洗髪） 6. 整容 7. 衣生活（ガウン式寝衣の交換）
14	2	【技術試験】	【全身清拭】
15	2	まとめ 単位認定試験	
（ ）は演習 【 】は技術試験内容			
3. 教科書	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
4. 参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社		
5. 成績評価方法	授業態度、筆記試験、技術試験により評価します。		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	全身清拭の技術試験があります。 患者役を体験することで、患者の立場に立って援助を検討する機会となります。		
7. 先輩学生からのメッセージ	授業を聞き、根拠や手順を理解し、たくさん練習しましょう。		

授業科目	診療検査に伴う援助技術		
単位・時間数	2単位 45時間	開講時期	1学年 後期
1. 科目のねらい・目標			
1. 対象に行われる診療・検査の目的、方法を理解し、診療・検査に伴う援助技術を習得する。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 ~ 14	28	与薬・輸血の技術	1. 与薬に関する基礎技術 2. 経口与薬法 3. 外用薬の皮膚・粘膜適用 4. 注射法 (筋肉内注射) *点滴静脈内注射は臨床看護総論Ⅰで学習する 5. 輸血療法
15	2	【技術試験】	【筋肉内注射】
16 ~ 21	12	診療と検査	1. 検査に伴う看護の役割 2. 排泄物の検査 3. 体液・組織の検査 (静脈血採血) 4. 生体検査 5. 創傷の処置(包帯)
22	2	【技術試験】	【静脈血採血】
23	1	単位認定試験	
( )は演習 【 】は技術試験内容			
3. 教科書	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
4. 参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社 医療安全ワークブック 医学書院		
5. 成績評価方法	授業態度、筆記試験、技術試験により評価します。		
6. 備考(学生へのメッセージ等)	筋肉注射、静脈血採血の技術試験があります。 計画的に、積極的に練習を積み重ね、安全安楽な看護技術を身につけましょう。		
7. 先輩学生からのメッセージ	採血も筋肉内注射も演習や技術試験があるので、手順や根拠を覚えて練習して臨みましょう。		

授業科目	臨床看護総論 I		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	1学年 後期
1. 科目のねらい・目標			
1. 健康障害をもつ対象を理解し、対象の症状や治療、処置に応じた援助方法を学ぶ。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1	2	経過からみた看護	1. 健康障害のレベルとしての「経過」とは 2. 急性期を経験している患者の看護 3. 回復期を経験している患者の看護 4. 慢性期を経験している患者の看護 5. 終末期を経験している患者の看護
2 3 13	10	症状を示す患者への看護	1. 呼吸が障害されるということ (口腔・鼻腔吸引・酸素吸入・薬剤吸入) 2. 意識が障害されるということ 3. 痛みを経験するということ 4. 発熱のある患者の看護 (冷罨法)
14 15	4	治療・処置を受ける患者への看護	1. 安静療法と看護 2. 食事療法と看護 (経管栄養法) 3. 薬物療法と看護 (点滴静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ) 4. 終末期における援助 (死後の処置) *DVDの視聴 5. 救急治療と看護 (心肺蘇生法)
16	1	単位認定試験	6. 褥瘡、創傷処置を必要とする患者への看護  ( )は演習
3. 教科書	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社		
4. 参考書	根拠・事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社		
5. 成績評価方法	授業態度、筆記試験、課題提出により評価します。		
6. 備考 (学生へのメッセージ等)	対象を様々な視点で理解し、症状や治療、処置の特徴に合わせた看護を学びます。臨地実習につなげていきましょう。		



授業科目	臨床看護総論Ⅱ		
単位・時間数	1単位 15時間	開講時期	2学年 後期
1. 科目のねらい・目標			
既習の知識・技術を統合し、事例に応じた看護援助を実践できる臨床判断能力を養う。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 2	4	1. 臨床判断能力の理解	1. 臨床判断 1) 臨床判断・臨床推論とは 2) 臨床判断の構成概念 3) 臨床判断のプロセス 4) 看護過程と臨床判断の関連 2. リフレクションとは 3. 臨床判断モデルを取り入れた実践展開 気付きトレーニング（日常生活援助）
3 4 5 6 7	10	1. 事例の状況に応じた日常生活援助	1. 学習の進め方 2. 事例提示（COPD） 3. 看護実践
8	1	まとめ	1. 学習過程の振り返り
3. 教科書	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社		
4. 参考書			
5. 成績評価方法	課題、グループ等の学習過程と看護実践は、評価表に基づき評価します。		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	タナーの臨床判断モデルに基づき、実際に臨床で働く看護師の思考過程を学びます。グループワークに積極的に参加し、看護師の思考過程を身につけましょう。この科目での学びは、必ず実習で活かします。		

授業科目	看護過程		
単位・時間数	1単位 30時間	開講時期	2学年 前期
1. 科目のねらい・目標			
<p>1. 看護過程の意義や目的を理解し、事例を用いて具体的な展開方法を学ぶ。</p> <p>2. 事例展開を通じて問題解決するための科学的思考のプロセスを学ぶ。</p>			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1 2 3	6	看護過程の基になる考 え方と理論	<p>1. 看護過程とは</p> <p>1) 看護過程とは何か</p> <p>2) 思考の訓練</p> <p>3) 問題解決過程との違い</p> <p>4) クリテイカルシンキング</p> <p>5) 看護過程の一連の流れ</p> <p>2. 看護過程の歴史</p> <p>3. 看護過程の構造</p> <p>4. ゴードンの機能的健康パターンについて</p>
4 5 6	6	看護過程の構成要素	<p>1. 観察と情報収集</p> <p>2. アセスメント (事例を用いて説明しながら)</p> <p>3. 看護問題の明確化と看護診断</p> <p>4. 目標の設定</p> <p>5. 看護計画</p> <p>6. 実施と評価</p>
7 8 9 10 11	9	紙上事例の看護過程の 展開	<p>COPDの事例を用いて看護過程の展開をおこなう。 (疾病の理解、アセスメントから問題の明確化まで)</p> <p>9・10回目は専任教員の個別指導を受ける。</p>
12 13	4	問題の統合と関連図	関連図の作成について
14 15 16	4	看護診断と目標・看護 計画	看護診断・看護目標・看護計画をグループワークにより まとめ、発表
16	1	単位認定試験	
3. 教科書	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ニューヴェルヒロカワ		
4. 参考書	NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 医学書院 エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規 実習でよく挙げる看護診断計画ガイド 照林社		
5. 成績評価方法	授業態度、筆記試験、課題提出により評価します。		
6. 備考(学生への メッセージ等)	課題提出を認定の必須条件とします。 実習では、看護過程の展開が重要になりますので、しっかり理解しておきましょう。		

授業科目	看護情報リテラシー		
単位・時間数	1単位 15時間	開講時期	2学年 前期
1. 科目のねらい・目標			
医療・看護情報の特徴、医療現場の実践的な取り組み等について理解を深め、情報を有効に活用する能力、看護に関する情報管理について学ぶ。			
2. 授業計画・内容			
回	時間	項目	内容
1	2	医療・看護における情報システム	1. 医療・看護における情報 2. 医療における情報の記録 3. 病院情報システムと記録の仕方 4. 地域医療福祉のネットワークと情報システムの活用
2	2		5. 電子カルテの取り扱い 6. 電子カルテと個人情報の保護 7. 看護倫理と法
3	2	ソーシャルメディア、医療情報の使い方	1. インターネットやソーシャルメディアの使い方 2. 健康医療情報と患者支援
4 5 6 7	8	医療・看護情報の活用	1. 地域医療における医療・看護情報の活用の実際 2. 病院での看護実践における医療・看護情報の活用の実際
8	1		認定試験
3. 教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院		
4. 参考書			
5. 成績評価方法	筆記試験、授業態度、レポート等		
6. 備考（学生へのメッセージ等）	医療・看護情報の管理の実際について学びます。 個人ワーク、グループワークに積極的に参加し、学びを深めましょう。		